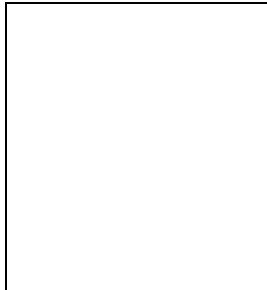


▽ 市川 智生 准教授 ICHIKAWA, TOMOO



所 属：総合文化学部 社会文化学科

担当科目：フレッシュマン・セミナー、人間文化課題研究
日本史、日本史概論、日本の歴史

学歴等のプロフィール

① 【 主要学歴 】 ② 【 学 位 】 ③ 【 所 属 学 会 】 ④ 【 主要な社会的活動 】

① 横浜国立大学国際社会科学研究科博士後期課程修了
② 博士(学術)
③ 史学会、社会経済史学会、日本熱帯医学会、Society for the Social History of Medicine

教育活動等

主な教育活動	年月日	摘要
<学内>		
フレッシュマン・セミナー	2018年4月～現在	
人間文化課題研究	2018年4月～現在	
日本史	2018年4月～現在	
日本史概論	2018年4月～現在	
日本の歴史	2018年4月～現在	
<学外>		
1. 上海交通大学		
日本近代史、日本現代史	2010年2月～2013年6月	
日本社会与近代化	2010年2月～2013年6月	
中外関係史専題研究	2012年2月～6月	
2. 長崎大学		
感染症と文明	2013- 2015 年度	
長崎学	2015 年度	
東西文化交流の歴史	2015-2016 年度	

<p>3. Martin Luther University Halle-Wittenberg 現在の研究動向および史料からみる日本近代史研究入門</p>	<p>2014年1月（集中講義）</p>
---	----------------------

研究業績等

【主要論文及び主要著書】

【Ⅰ 著書】

1. 永島剛・市川智生・飯島渉編『衛生と近代：ペスト流行にみる東アジアの統治・医療・社会』法政大学出版局、2017年。（※市川智生「第4章 神戸：1899年開港場の防疫と外国人社会」（97～126頁）
2. 川端善一郎ほか編『湖の現状と未来可能性』松香堂書店、2014年（※市川智生・東城文柄「日本の湖岸地域における環境変化と住民の健康問題：琵琶湖彦根マラリア（1920－1950）」41-53頁）
3. 趙正民編『東アジア開港場都市のローカリティ』ソミヨン出版、2013年（※市川智生「伝染病対策の混線：横浜、長崎、神戸の外国人居留地を中心に」204～232頁）

【Ⅱ 学術論文】

1. 市川智生「開港場神戸における感染症対策と居留地自治」『歴史科学』第219号、32～41頁、2015年
2. Collins John, Tomo Ichikawa, Halima Abdu, Isaac Ocheke, Udochukwu Diala Virginia Modise-Letsatsi, Takayuki Wada, Seline Okolo, Taro Yamamoto, "Obesity Characteristics and Child Anthropometric Status in Jos, Nigeria" *Nigerian Medical Journal*, Vol.56 Num.4, 2015., pp.236-pp.239.
3. 市川智生「明治初期の伝染病流行と居留地行政：1870・71年横浜の天然痘対策」『日本歴史』第762号、58～75頁、2011年
4. 市川智生「近代日本の開港場における伝染病流行と外国人居留地：1879年「神奈川県地方衛生会」によるコレラ対策」『史学雑誌』第117編第6号、1059～1096頁、2008年

【Ⅲ その他の著作】

1. 市川智生「長与専斎」『近現代日本人物史料情報辞典』、吉川弘文館、2004年
2. 市川智生「石黒忠憲」『近現代日本人物史料情報辞典』第3巻、吉川弘文館、2007年
3. 市川智生「海港検疫の知られざる歴史を検証」*Ship & Ocean Newsletter* No.172、海洋政策研究財団、2007年
4. Tomo ICHIKAWA, "Military Medicine and Indigenous Society in Colonial Taiwan", 2008年度財団法人交流協会日台交流センター・日台支援事業報告書、2009年
5. 市川智生「中国寒冷高地における身体適応：四川省紅原県での調査」『天地人』第25号、総合地球環境学研究所中国環境問題研究拠点、2014年
6. 市川智生「書評 福士由紀著『近代上海と公衆衛生：防疫の都市社会史』」*社会経済史学* 79(4)、

2014年

7. 山本太郎・和田崇之・市川智生「進化とエコヘルス」『医学のあゆみ』Vol.250 No.3、2014年

【IV 競争的獲得資金】

<研究代表者>

1. 日本科学協会 笹川科学研究助成、近代日本における海港検疫システムの成立（2006年4月～2006年3月）
2. 財団法人交流協会・日台交流センター 日台研究支援事業、植民地初期台湾における軍陣衛生と地域医療の展開（2008年7月～8月に台湾へ派遣）
3. 日本学術振興会・科学研究費補助金・若手研究(B) 研究課題番号:21700844、近代日本の開港場における感染症と国際社会(2009年4月～同年8月)
4. 上海交通大学 文科科研創新計画項目、晩清期中国在日公使館与領事館的活動(2012年3月～2013年2月)
5. 財団法人医療科学財団 第21回研究助成、日本における近代医療の源流:国際保健学および感染症疫学との対話を中心に(2012年4月～2013年3月)
6. かなえ医薬振興財団 第43回 アジア・オセアニア交流研究助成金、中国およびネパールの寒冷高地における生活習慣病に関する疫学的研究(2014年11月～2017年3月)
7. 日本学術振興会科学研究費補助金・若手研究(B) 研究課題番号:15K16272、人獣共通感染症としての日本の結核史:歴史学および分子疫学による検証(2015年4月～2017年3月)
8. 日本学術振興会・科学研究費補助金・基盤研究(C) 研究課題番号:17K01176、戦前日本の結核に関する歴史疫学研究:罹患情報に基づく蔓延状況の再現(2017年4月～2020年3月(予定))

<研究分担者>

1. 日本学術振興会・科学研究費補助金 基盤研究(B) 海外学術調査 ドイツにおける対日外交文書の収集と利用可能性(2013年4月～2016年3月)研究代表者:五百旗頭薫(東京大学)
2. 日本学術振興会・科学研究費補助金 挑戦的萌芽研究、中国コロニアル沿岸都市のメディア・ネットワークと東アジアの気候変動(2013年4月～2016年3月)研究代表者:塚原東吾(神戸大学)
3. 日本学術振興会・科学研究費補助金 基盤研究(B)、日米医学協力計画(1965～90年)とJICAによるフィリピンへの医療援助(2015年4月～2019年3月)研究代表者:飯島渉(青山学院大学)
4. 日本学術振興会・科学研究費補助金 基盤研究(A)、20世紀日本の長期療養型疾患の歴史—ハンセン病・精神疾患・結核の比較統合的検討(2017年4月～2021年3月)研究代表者:鈴木晃仁(慶應義塾大学)
5. 日本学術振興会・科学研究費補助金 基盤研究(B)、ドイツ日本関係史料による新しい明治日本理解の構築:外交と国家形成(2017年4月～2020年3月)研究代表者:五百旗頭薫(東京大学)

研究分野

<分野>

日本近代史、医療社会史

<現在取り組んでいる研究課題>

1. 明治日本の急性感染症対策と外国人社会
2. 日本における結核の歴史疫学研究
3. 戦後のへき地医療と「風土病」の消滅

【Eメール・ホームページ等】

<https://researchmap.jp/read0134785/>

平成 30 年 4 月 30 日現在